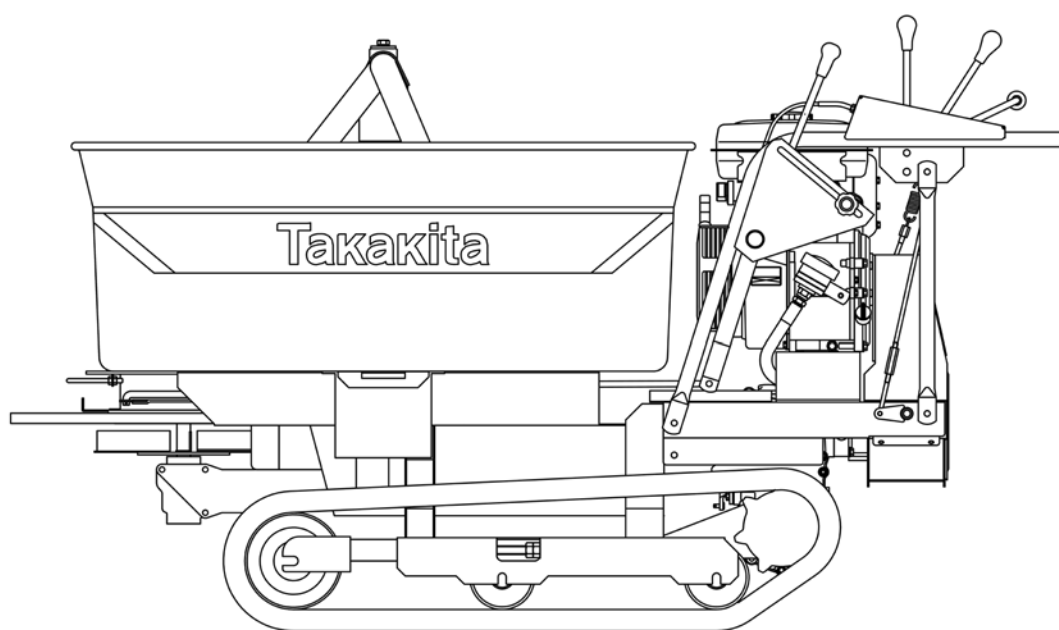


取扱説明書及び部品表

Takakita

ブレードキャスタ

BS-632SS



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**自走ブレンドキャスト**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	9
各部の名称とはたらき	10
操作・運転装置について	12
1. エンジンストップスイッチ	12
2. エンジンスロットルレバー	12
3. 走行クラッチレバー	12
4. 副変速レバー	12
5. 前後進変速レバー	13
6. サイドクラッチレバー	13
7. 作業クラッチレバー	14
8. シャッター開閉ハンドル	14
9. シャッター開度ストッパーノブ	14
10. 駐車ブレーキ	14
作 業 方 法	15
1. 散布物、散布量に応じた シャッター底板の選定	15
2. 散布量の設定と調整	17
3. 堆肥の中量散布について	22
4. 堆肥の大量散布について	23
5. 肥料の混合・カクハン方法について	24
6. 散布方向の微調整について	26
積降ろし運搬・移動	27
1. トラック・トレーラへの積降ろし	27
2. トラック及びトレーラでの運搬	27
3. 移動について	27
作業前の点検について	28
1. 点検一覧表	28
簡単な手入れと処置	29
1. エアクリーナ	29
2. 走行ミッション	29
3. ベベルギヤケースのオイル交換	29
4. H S T ミッションのオイル管理	29
5. 走行クラッチ・作業クラッチの調整	30
6. 左右のサイドクラッチレバー	31
7. 駆動チェン	31
8. シェアボードの隙間調整	31
9. 駐車ブレーキワイヤの調整	31
10. シェアボルトの交換	32
11. 散布部及び側方取出し口部の清掃	32
12. クローラの張り調整	33
13. エンジンの点検・整備	33
14. 各部への給油	34
不 調 診 断	35
付 表	36
1. 主要諸元	36
2. 主な消耗部品	37
3. 主なアタッチメント（別売品）	37
4. オプション部品（別売品）	37

！安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある **！** 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解したうえで使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

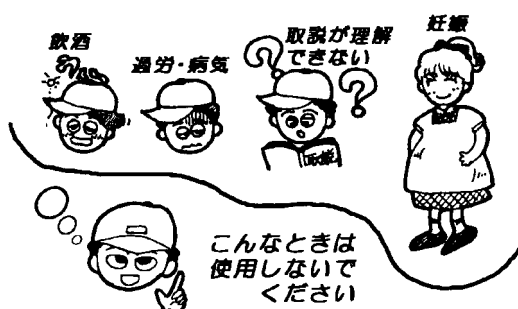
機械を人に貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

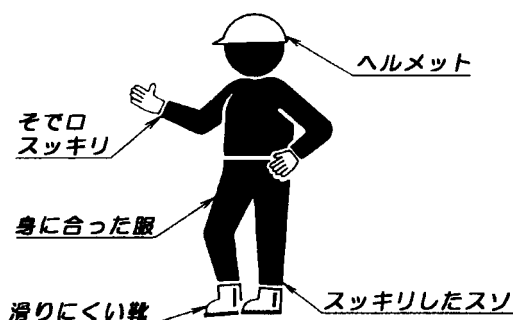
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



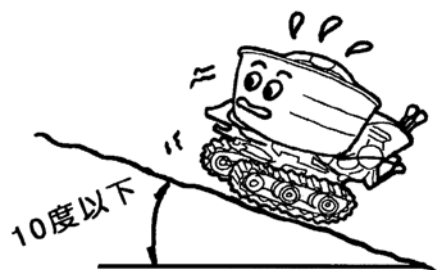
(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 積載量の厳守

本機は、積載量を限定しています。表示以上の積み過ぎは危険です。積載量が平地で380kg、傾斜地作業は最大傾斜10度までとし、そのときの積載量は230kgです。



(4) 機械の改造厳禁

指定以外の部品を取付けないでください。また、改造をしないでください。



(5) 使用目的以外への使用禁止

有機肥料や化成肥料を混合したり、散布することを目的とした機械です。他の目的には使用しないでください。

！安全に作業するために

(6) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

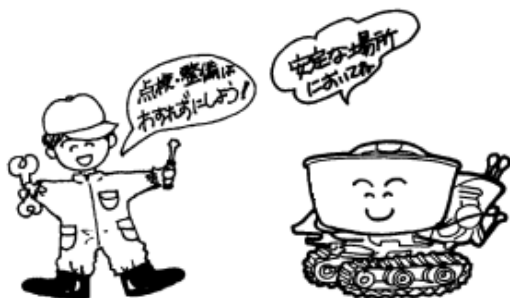


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、エンジンを停止し、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。

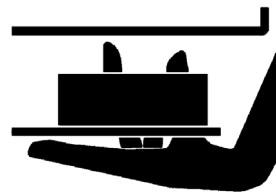


(4) 点検・整備は加熱部分が冷めてから

マフラやエンジンなどの加熱部分が十分に冷めてから点検・整備をしてください。守らないと火傷する恐れがあります。

(5) 慣性回転に注意

クラッチを切ってもスピナーは慣性力でしばらく回転しています。完全に停止するまで触れないでください。



(6) 機械を常にきれいに

エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリーなどに枯草、芝草がたまっていると、思わぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。



(7) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。

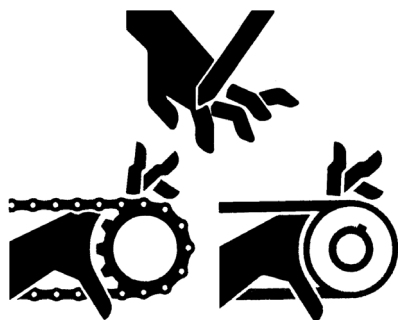


！安全に作業するために

(8) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外す場合は、必ずエンジンを停止してから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(9) 注油・給油をするときは

エンジンを停止し、回転部分が完全に止まってから行ってください。



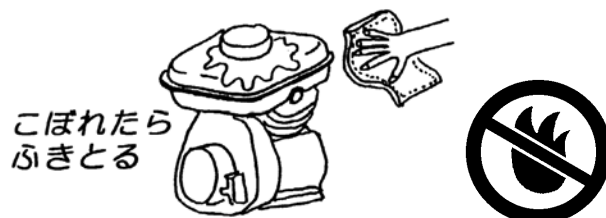
(10) 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草やマッチ・ライターなど裸火照明は絶対に使用しないでください。守らないと燃料に引火し、火災を起こす恐れがあります。



(11) こぼれた燃料は拭き取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



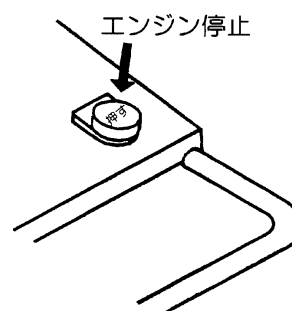
(12) マフラ・エンジンのゴミは取除く

作業前に、マフラやエンジン周辺に堆肥・ゴミなどが付着していないか点検し、付着していれば取除いてください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



(13) ストップスイッチの動作確認を

作業前に、配線コードの外れなどがないかを点検し、ストップスイッチを押してエンジンが停止するかを必ず確認してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



！安全に作業するために

(14) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部およびチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。

燃料の変質を予防するため、燃料タンク・気化器内の燃料を抜いてください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 夜間走行・作業の禁止

本機は照明装置を装備していません。夜間の走行や作業は危険ですので絶対に行わないでください。

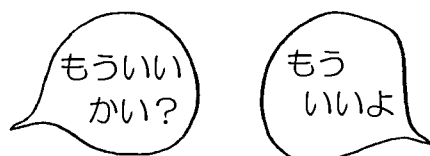
(2) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) エンジンを始動するときは

作業クラッチおよび走行クラッチを切り、副変速レバーおよび前後進変速レバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。

守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(5) 散布する堆肥の異物は取り除く

散布する堆肥には石・木片・鉄片などの異物を混入させないようにしてください。機械の故障の原因となるばかりでなく、思わぬ方向へ飛散して危険です。



(6) 散布作業するときは

散布作業中は前方に堆肥・肥料が5m前後に飛散します。前方に人がいないことや障害物のないことを十分確認し、散布距離を考慮して作業してください。



安全に作業するために

(7) 急な発進・停止・旋回・

スピードの出しすぎ禁止

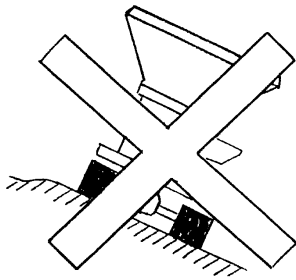
スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

(8) 傾斜地で作業するときは

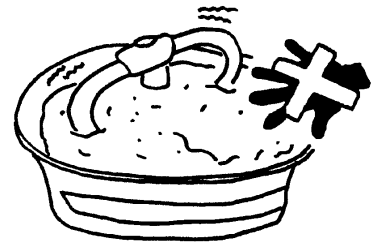
次のことを必ず守ってください。

- ①等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。
斜面の作業は、必ず等高線に対して直角方向に走行してください。



- ②チェンジ操作は行わず、あらかじめ変速位置を低速にして速度を下げ、特に下り坂ではエンジンブレーキを使用してください。

- (9) 回転中のカクハンアームには触れない
回転しているカクハンアームに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



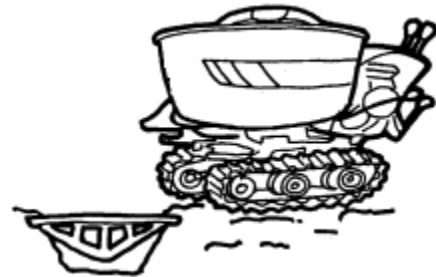
(10) 移動および旋回するときは

旋回時に片方のクローラをあぜぎわに乗り上げたり、急旋回は絶対に行わないでください。転倒や脱輪の恐れがあり危険です。

(11) 溝や畦を横断したり

軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



- (12) 作業途中で運転席より離れるときは
平坦な場所に停車し、エンジンを停止し、走行クラッチを切ってください。走行クラッチを切ると駐車ブレーキが掛かります。

(13) 後進して作業するときは

後方に障害物のないことを十分確認し、本機と障害物の間に人や動物を挟まないようにしてください。

！安全に作業するために



(14) あぜの乗り越えは

畦畔を越えるときは、機体が急に上向きから下向きに変わるので十分に注意し、最低速度で畦畔に直角に越えるようにしてください。あぜがコンクリートであったり、高さが10cm以上のときはアユミ板を使ってください。



(15) 高温油に注意してください

- ①高温油による傷害を防止するために作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か十分温度が冷えてから行ってください。
- ②火傷やケガを負った場合は、速やかに医療機関を受診してください。



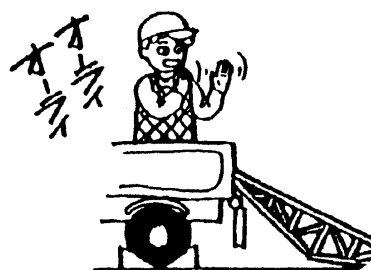
4. 道路走行・輸送するときは

(1) 公道走行はできません

本機は公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックなどで運送してください。

(2) トラックなどへ積み込み・降ろしは

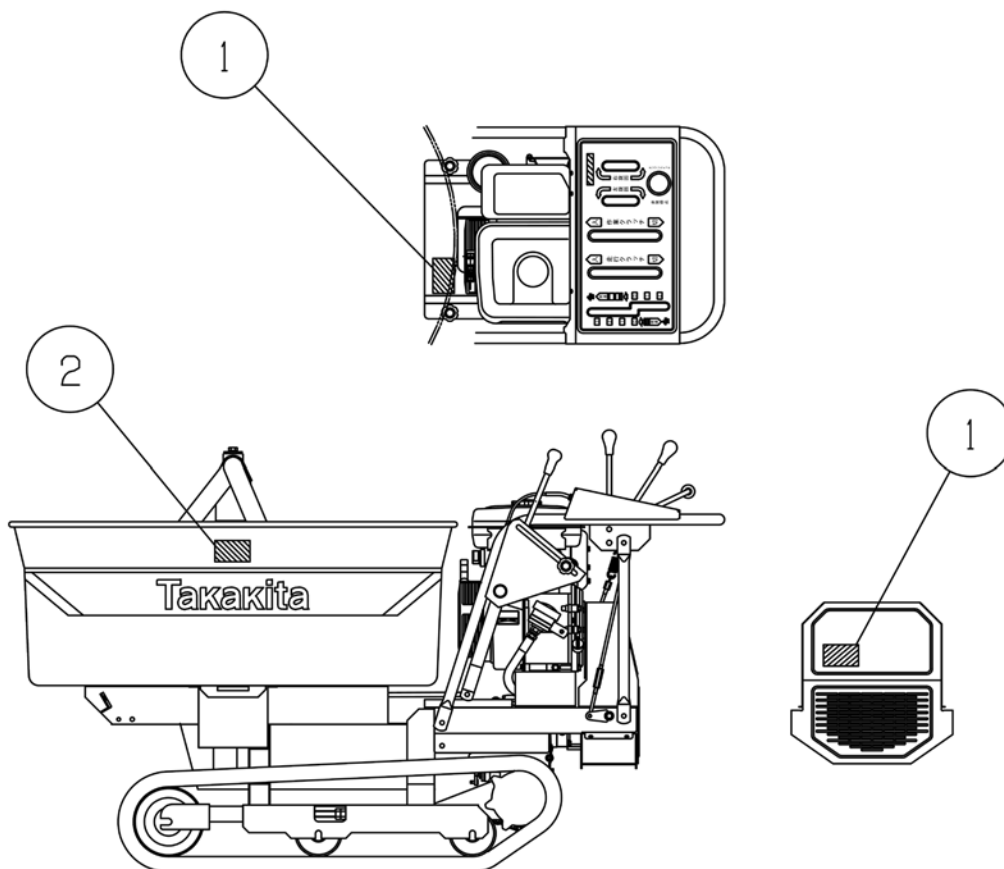
平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度でクラッチを使わずに行ってください。積み込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で **！** 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

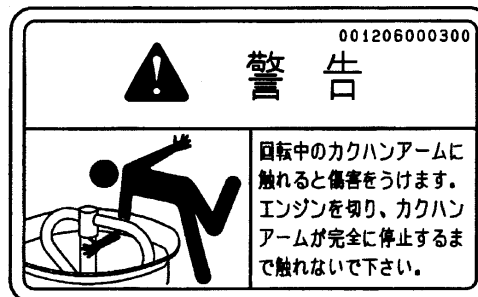
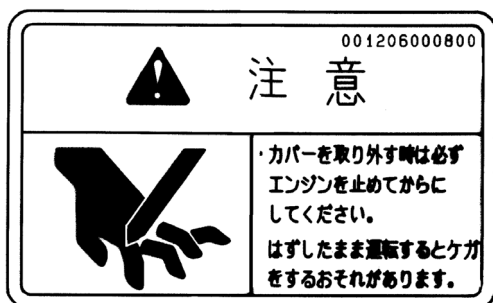
⚠ 安全に作業するために

5. 警告ラベルの貼付け位置

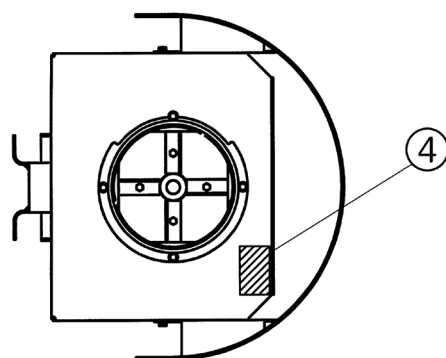
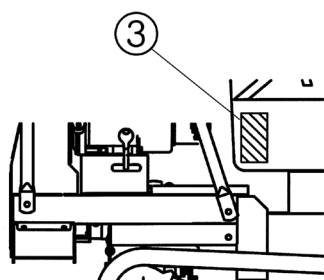


①部品コード 001206000800

②部品コード 001206000300

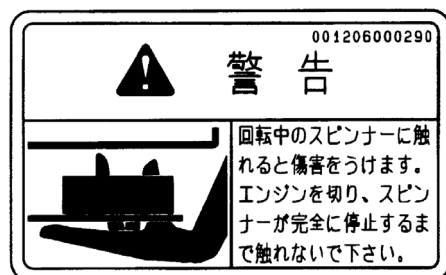
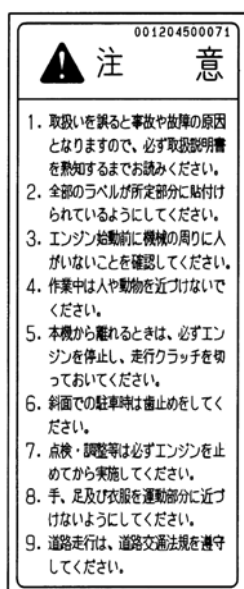


⚠ 安全に作業するために



③部品コード 001204500071

④部品コード 001206000290



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

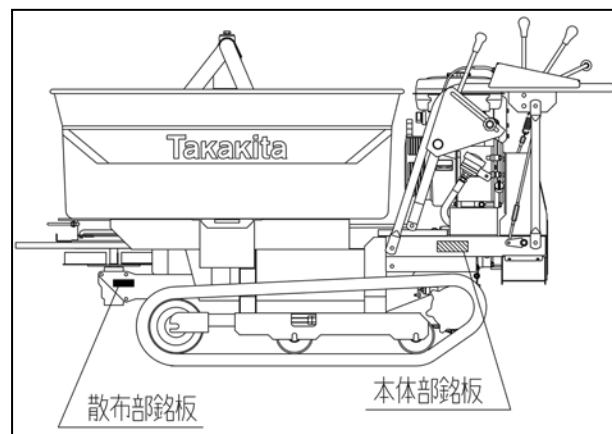
本製品の使用目的について

本製品は、有機肥料や化成肥料を混合したり、散布する作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、JA（農協）、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

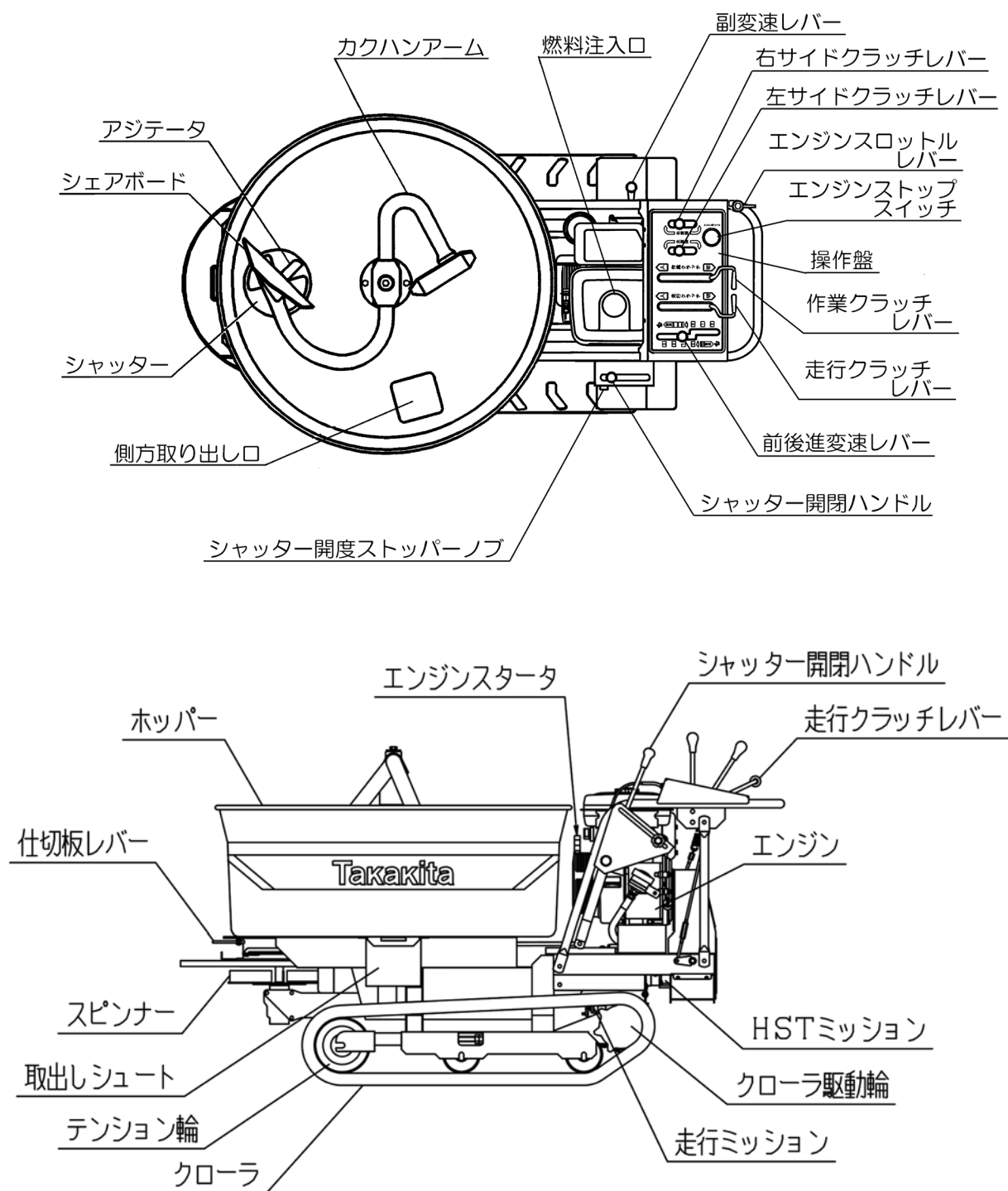
- 品名と型式
- 機体 No. (S E R - N o.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品名	自走ブレンドキャスタ			
型式	本体部型式 BS-632SS		散布部型式 BS-SS-3	
	機体No. (SER-No.)		機体No. (SER-No.)	
購入年月日	年 月 日			
販売店名	TEL : ()			

各部の名称とはたらき



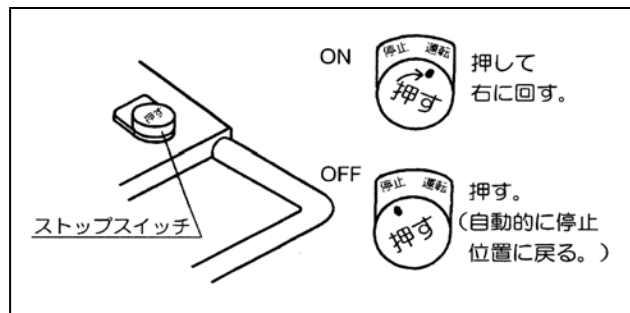
各部の名称とはたらき

名 称		はたらき	参照ページ
機能構成部	ホッパー	肥料や堆肥を投入し、混合する器。	—
	カクハンアーム	肥料や堆肥を混合し、散布口まで運びます。	—
	シェアボード	カクハンアーム先端の小手の部分。	—
	アジテータ	肥料や堆肥を散布口まで繰り出す作用をします。	16
	シャッター	肥料や堆肥の繰り出し量を調整する部分。	16
	側方取出し口(取出しシュート)	ホッパー内で混合した肥料などを取出す際に使用します。	25
	仕切板レバー	ホッパー内の散布物を散布前に混合する際には閉じて使用し、散布作業時には開けて使用します。 また、堆肥の大量散布時、散布量調整にも使用します。	15 22 23
動力伝達構成部	スピナー	肥料や堆肥を遠心力により散布する回転羽根。	26
	操作盤	各操作レバーを集中操作する部分。	—
	エンジン	動力源、燃料はレギュラーガソリンを使用します。	33
	エンジンスタータ	エンジンの始動時に使用します。	—
	走行ミッション	走行部のクローラへ動力を伝達するミッション。	29
	HSTミッション	走行速度および前後進を無段階に行うミッション。	29
	副変速レバー	走行速度を高速・低速および中立の3段階に切換えるレバー。	12
	クローラ駆動輪	クローラを駆動させる方の駆動輪。	—
	クローラ	ゴム製の走行履帯。	33
	テンション輪	クローラの張り具合を調整し、車体荷重を支えます。	33
	燃料注入口	エンジンの燃料タンクへの注入口。	—
操作関係部	エンジンストップスイッチ	スイッチを押込み右に回すと、エンジンが始動します。 スイッチを押すと、エンジンが停止します。	12
	エンジンスロットルレバー	エンジンの回転速度を調整するレバー。 通常は最大回転位置で使用します。	12
	走行クラッチレバー	前に倒すと走行することができます。手前に引くと走行できない状態になり、同時に駐車ブレーキが作動します。	12 30
	右サイドクラッチレバー	右側へ旋回するときにこのレバーを手前に引きます。	13
	左サイドクラッチレバー	左側へ旋回するときにこのレバーを手前に引きます。	13
	作業クラッチレバー	ブレンダーキャスタ側への動力伝達の入切を操作します。 手前に引くと作動が停止します。	14 30
	前後進変速レバー	本機の前後進の切換えおよび車速の変速を行います。 前方へ倒せば前進、後方へ倒せば後進します。	13
	シャッター開閉ハンドル	肥料や堆肥の散布量を調整するハンドル。	14
	シャッター開度ストッパーノブ	シャッター開閉ハンドルの開度位置を固定するノブ。	14

操作・運転装置について

1. エンジnstopスイッチ

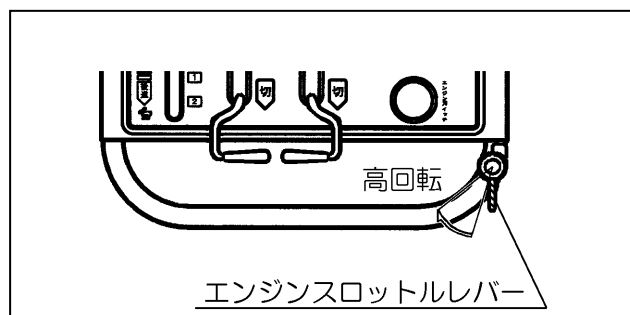
- ①エンジンの始動時および作業中は、次図のように操作盤のエンジンストップスイッチを押し込んで右に回した状態にしてください。
- ②また、エンジンを停止するときにはエンジンストップスイッチを押してください。



2. エンジンスロットルレバー

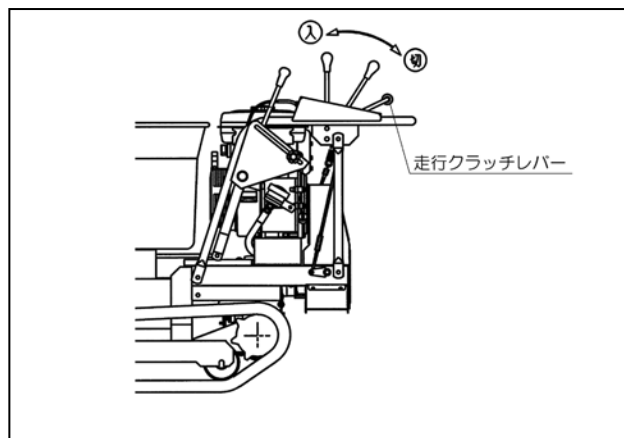
エンジンの回転速度を調整するレバーです。次図の方向に回すほど、エンジンの回転速度が速くなります。

※作業時は、最高回転位置でご使用ください。



3. 走行クラッチレバー

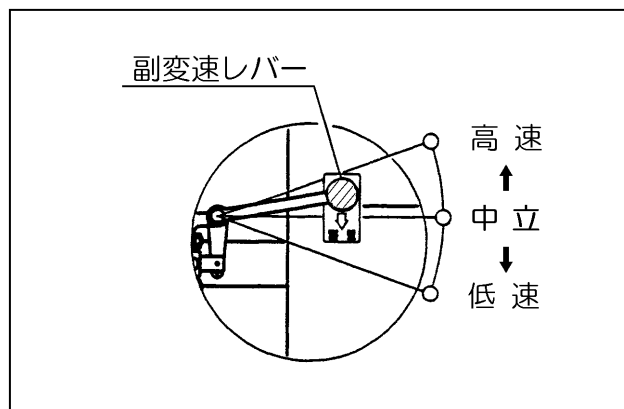
- ①作業時には次図のように走行クラッチレバーを前に倒し、「入」の状態にすると走行することができます。
- ②停止あるいは副変速レバーを切換えるときは、次図のように走行クラッチレバーを手前に引き「切」の状態にすると、本機の走行が停止するとともに、駐車ブレーキが作動します。



⚠ 危険

エンジンの始動は走行クラッチレバーを必ず「切」の位置で行ってください。

4. 副変速レバー



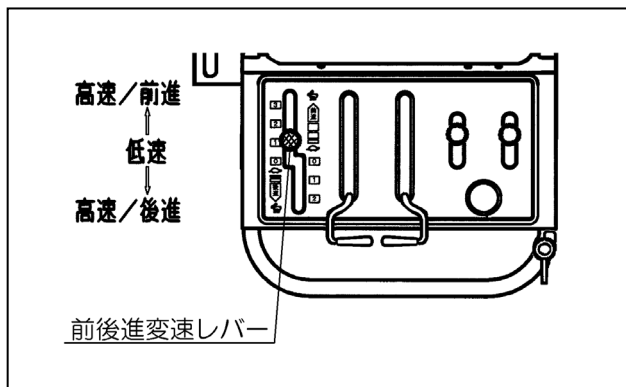
- ①作業時は副変速レバーを「低速」側に入れてご使用ください。
- ②移動時は副変速レバーを「高速」側に入れると、速く移動できます。

操作・運転装置について

⚠ 警告

- 停車状態で混合作業のみを行う場合は副変速レバーを必ず「中立」に入れてご使用ください。
- 混合作業は機体が動かないよう、平坦地を選んで行ってください。
- 副変速レバーの切換えは、走行ミッションを傷めないよう、必ず走行クラッチレバーを切った状態で行ってください。

5. 前後進変速レバー



- ① 本機の前後進および走行速度の変速は、このレバーで操作することができます。
- ② 前後進変速レバーを進行方向に向かって前方へ倒すと本機は前進します。
- ③ 前後進変速レバーを進行方向に向かって手前へ倒すと本機は後進します。
- ④ 前進、および後進のいずれかにおいても、この前後進変速レバーの傾倒度合に応じて無段階に車速が速くなります。

⚠ 危険

前進から後進、あるいは後進から前進に切り換えるときは、必ずこのレバーを一旦低速の位置に戻してから操作してください。
急激な切換えは、大変危険です。

《速度の目安》

副変速	低速	高速
前進	0～1.7km/h	0～3.5km/h
後進	0～1.2km/h	0～2.4km/h

※速度は使用条件により誤差が発生します。

注意

寒冷地では、HSTミッション内部のオイルが暖まるまで、暖気運転を行ってください。

6. サイドクラッチレバー

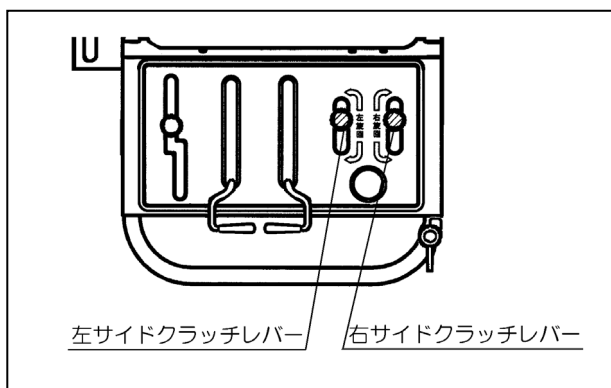
右に旋回するときは、右サイドクラッチレバーを手前に引き、左に旋回するときは、左サイドクラッチレバーを手前に引いてください。

注意

- 旋回時以外は、左右のサイドクラッチレバーから手を放してください。
(守らないとクラッチ爪の消耗を早めます。)
- 砂利道やぬかるみでの急旋回は、クローラへの石や泥の噛み込みの原因となりますので行わないでください。

⚠ 危険

高速走行時、サイドクラッチレバーを強く引くと急旋回して大変危険です。



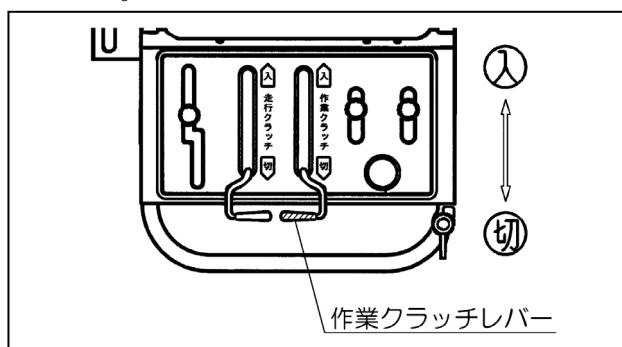
操作・運転装置について

7. 作業クラッチレバー

- ①作業クラッチレバーを次図の状態から前方の「入」位置の方向へ倒すと、作業クラッチがつながり、ブレードキャスタ部のカクハンアームおよびスピナーが回転し、ホッパー内の散布物が混合散布される状態となります。
- ②作業クラッチレバーを「入」の位置から「切」の位置へ戻すと、カクハンアームおよびスピナーの回転は停止します。

注 意

- エンジンがアイドリング状態で作業クラッチを「入」にすると、エンジンが停止する場合があります。
- エンジンの回転速度を十分上げてから、作業クラッチをゆっくりとつないでください。
- 散布作業時は、エンジンの回転速度を十分に上げてから走行を開始してください。



⚠ 危険

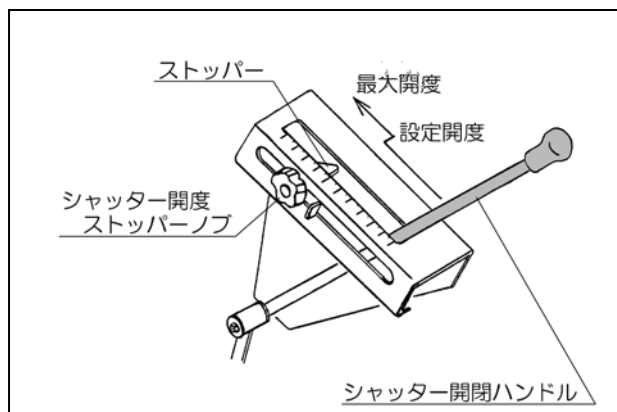
エンジン始動時は、突然動き出さないように、この作業クラッチを必ず切っておいてください。

8. シャッター開閉ハンドル

- ①シャッター開閉ハンドルは、散布作業時のシャッターの開閉および散布量の調整時に使用します。
- ②シャッター開閉ハンドルを前方へ押し込むほどシャッター開度が大きくなり、散布量が多くなります。

- ③ホッパー内の肥料が少なくなった場合、散布量が減少します。

このような場合シャッター開閉ハンドルを少し右に倒すことにより、ストッパーを乗り越え、シャッターを最大開度にすることができます。

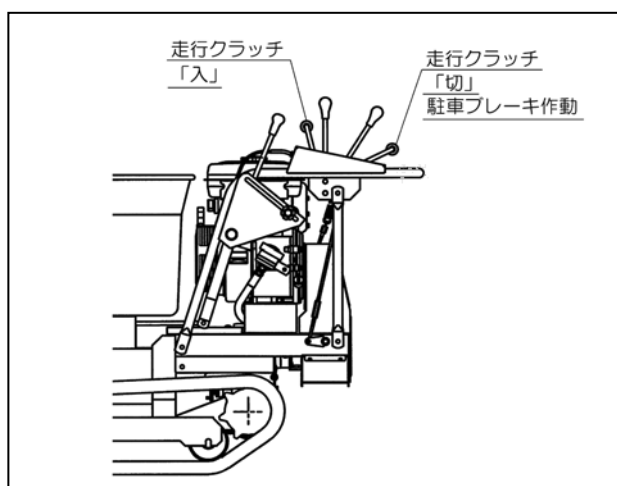


9. シャッター開度ストッパーノブ

散布量の設定が決まり、シャッター開閉ハンドルの散布位置が決まったら、ストッパーノブをしっかりと締めてください。

※散布量の設定と調整については17頁～をご参照ください。

10. 駐車ブレーキ

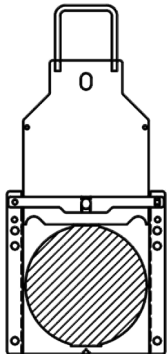
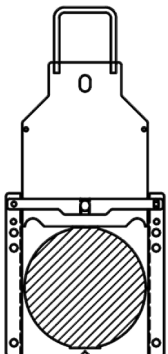
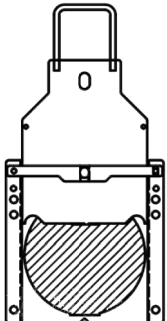
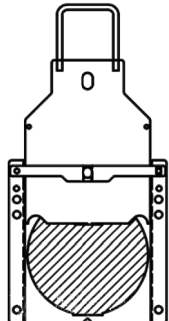
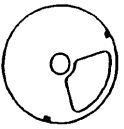
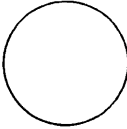
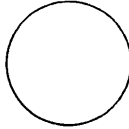
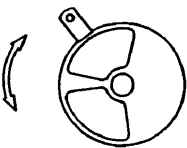
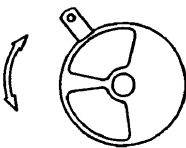
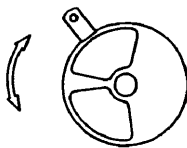
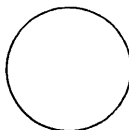


本機は走行クラッチレバーを切ると、連動して駐車ブレーキが作動します。

作業方法

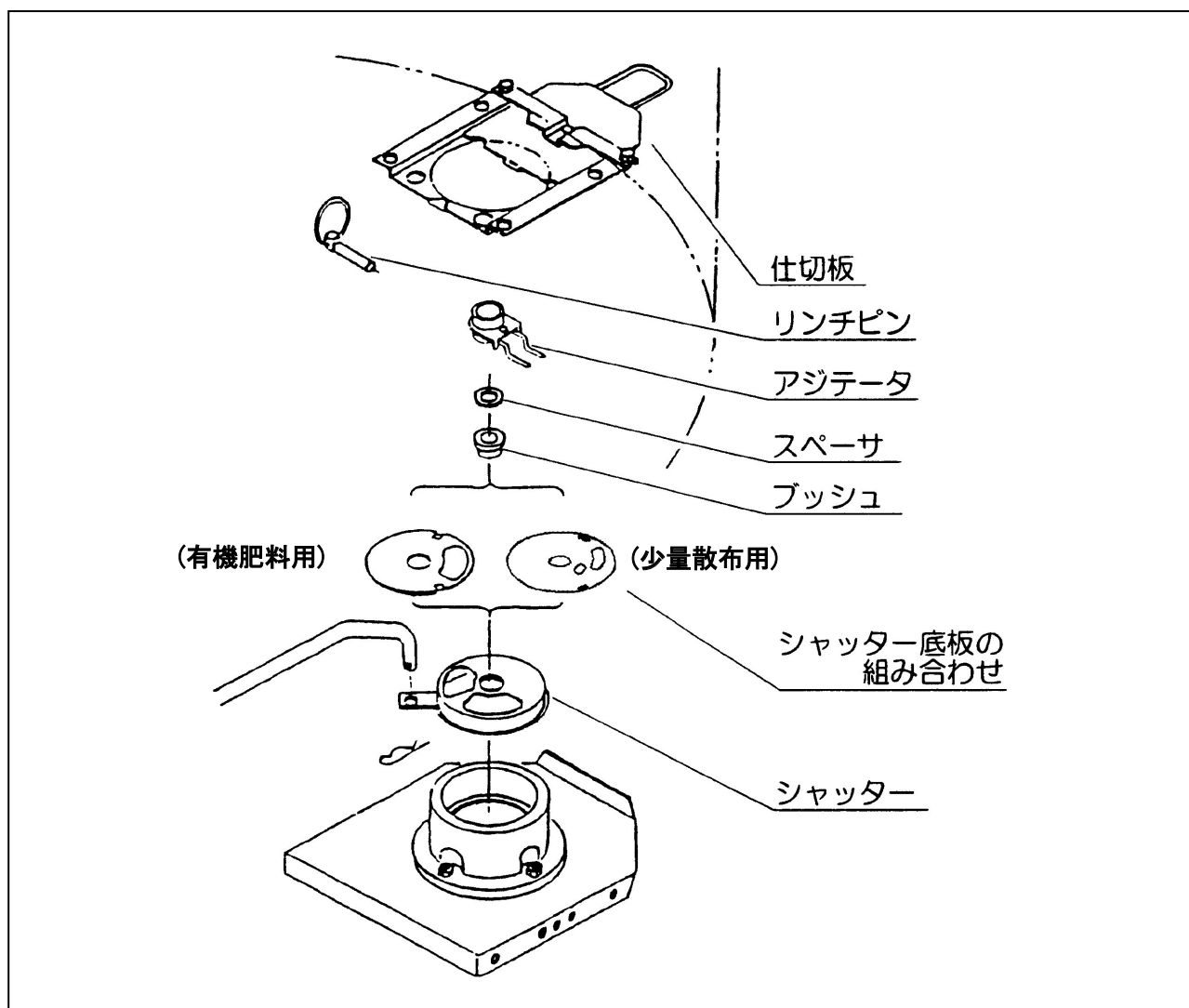
1. 散布物、散布量に応じたシャッター底板の選定

- ① 散布特性は、一般に散布物により変化し、また要求される散布量も散布物により異なります。
- ② 本機は、散布物の散布特性に応じたシャッター底板の選定ができる構成となっております。
- ③ 一般的には、次表の組み合わせを参考に、散布物、散布量に応じたシャッター底板の選定を行ってください。

	化成肥料 有機肥料 (10a当り300kg未満) (骨粉、魚粉、貝ガラ粉等)	有機肥料 (10a当り300kg未満) (骨粉、魚粉、貝ガラ粉等) 完熟堆肥(少量)	完熟堆肥 (10a当り300～500kg)	完熟堆肥 (10a当り2t まで)
仕切板の調整	全開 	全開 	開度にて散布量調整 	開度にて散布量調整 
シャッター底板の選択	少量散布用底板 	有機肥料用底板 	シャッター底板無し 	シャッター底板無し 
シャッター有無	シャッター有り 	シャッター有り 	シャッター有り 	シャッター無し 
散布量	シャッター開度にて調整	シャッター開度にて調整	仕切板開度にて調整	仕切板開度にて調整
散布方向	スピナーファン角度にて調整	スピナーファン角度にて調整	シャッター開度位置および、スピナーファン角度にて調整	スピナーファン角度にて調整

作業方法

◆シャッターの組み合せ



注意

アジテータは、使用后必ず本機から取り外して保管してください。

使用後もアジテータ軸に装着しておきますと錆付の原因となり、容易に交換ができなくなります。

作業方法

2. 散布量の設定と調整

- ①シャッター底板の選択が決まったら散布量を設定します。
- ②散布量は基本的にシャッター開度と作業速度により調整設定します。
- ③散布量および散布幅は、同じシャッター底板、同じシャッター開度でも散布物の種類や性状の違いにより異なります。

※P18～21の散布物による散布量の目安表中より、10アール当りに必要とされる散布量の近い数値を選び、シャッター開度と作業速度を選定してください。

※P18～21の散布量の目安は、実験値から算出した理論値です。

正確な散布量が必要な場合は、試し散布を行ってください。

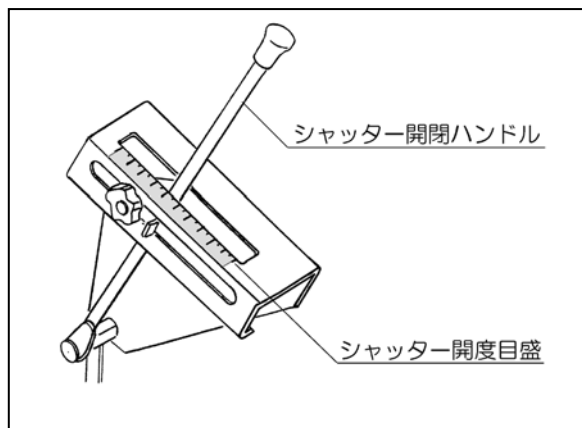
《例》10アール当たり、化成肥料を約150kg散布したい場合、散布量の目安表中より粒状化成肥料の散布量150kgに近い数値を探すと、

- (案1) シャッター開度3、作業速度1km/hrの組み合わせ
- (案2) シャッター開度4、作業速度2km/hrの組み合わせ
- (案3) シャッター開度5、作業速度3km/hrの組み合わせ

以上のうち、ほ場条件、作業条件に適した組み合わせを選択してください。

※この場合の目安とする有効散布幅は5mです。

少量散布用 シャッター底板		有効散布幅基準による散布量の目安 有効散布幅: 5m		
		化成(粒状)肥料10a当りの散布量の目安(kg)		
シャッター開度	作業速度	1km/hr	2km/hr	3km/hr
2		51	26	17
3		169	85	56
4		308	154	103
5		470	235	157
6		629	315	210



注意

- シャッター開度は、シャッター開度ハンドルをシャッター開度目盛に合わせてください。
- 作業速度の目安は、P13の表を参照してください。

作業方法

※ 部は実用の適用外

 少量散布用 シャッター底板	有効散布幅基準による散布量の目安 有効散布幅:5m		
	化成(粒状)肥料10a当たりの散布量の目安(kg)		
作業速度 シャッター開度	1km/hr	2km/hr	3km/hr
2	51	26	17
3	169	85	56
4	308	154	103
5	407	235	157
6	629	315	210

※開度6以上の散布量が必要な場合は、次ページに示します。有機肥料用シャッター底板をご使用ください。

 少量散布用 シャッター底板	有効散布幅基準による散布量の目安 有効散布幅:2m		
	有機肥料(骨粉等)肥料10a当たりの散布量の目安(kg)		
作業速度 シャッター開度	1km/hr	2km/hr	3km/hr
2	56	28	19
3	148	74	50
4	254	127	86
5	451	225	152
6	615	308	208

※開度6以上の散布量が必要な場合は、次ページに示します。有機肥料用シャッター底板をご使用ください。

作業方法

※ 部は実用の適用外

 有機肥料用 シャッター底板	有効散布幅基準による散布量の目安 有効散布幅:5m		
	化成混合(粒状)10a当たりの散布量の目安(kg)		
作業速度 シャッター開度	1km/hr	2km/hr	3km/hr
1			
2	152	76	51
3	591	296	200
4	1128	564	381
5	1518	759	512
6	2005	1003	677

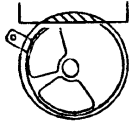
 有機肥料用 シャッター底板	有効散布幅基準による散布量の目安 有効散布幅:2.5m		
	有機肥料(骨粉等)10a当たりの散布量の目安(kg)		
作業速度 シャッター開度	1km/hr	2km/hr	3km/hr
1			
2	86	43	29
3	810	405	273
4	1512	761	513
5	2587	1294	873
6	2995	1497	1010
7	3995	1997	1348
8	5373	2687	1813
9.5	6885	3443	2323

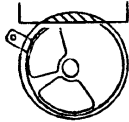
作業方法

※ 部は実用の適用外

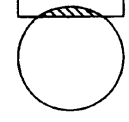
 有機肥料用 シャッター底板	有効散布幅基準による散布量の目安 有効散布幅: 3m		
	袋詰バーク堆肥10a当たりの散布量の目安(kg)		
作業速度 シャッター開度	1km/hr	2km/hr	3km/hr
1	38	19	13
2	75	38	25
3	114	57	39
4	202	101	68
5	284	142	96
6	488	224	151
7	607	304	205
8	700	370	250
9. 5	929	464	313

作業方法

 シャッター底板なし	有効散布幅基準による散布量の目安 有効散布幅: 3.5m		
	ピートモス10a当たりの散布量の目安(kg)		
作業速度 仕切板開度	1km/hr	2km/hr	3km/hr
50% 開	935	467	315
75% 開	1219	609	411
100% 開	1423	712	480

 シャッター底板なし	有効散布幅基準による散布量の目安 有効散布幅: 4m		
	完熟堆肥10a当たりの散布量の目安(kg)		
作業速度 仕切板開度	1km/hr	2km/hr	3km/hr
50% 開	577	288	194
75% 開	624	312	210
100% 開	958	479	323

※P22の「堆肥の中量散布について」を参照してください。

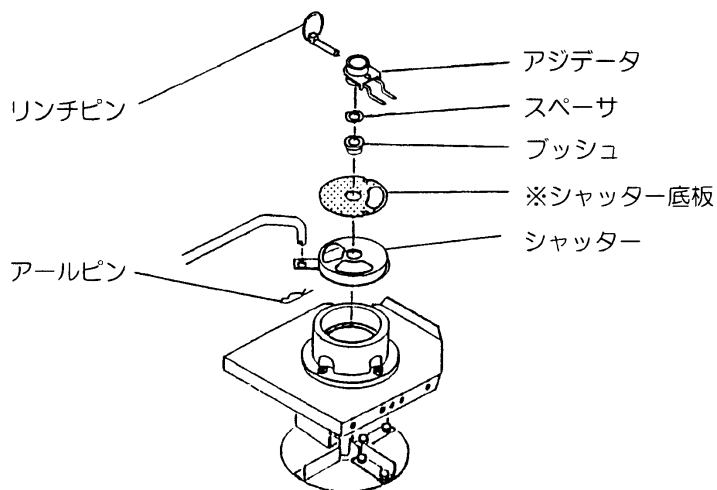
 シャッター・シャッター底板なし	有効散布幅基準による散布量の目安 有効散布幅: 4m		
	完熟堆肥10a当たりの散布量の目安(kg)		
作業速度 仕切板開度	1km/hr	2km/hr	3km/hr
50% 開	1150	600	400
75% 開	1750	900	600
100% 開	3400	1700	1150

※P23の「堆肥の大量散布について」を参照してください。

作業方法

3. 堆肥の中量散布について

- ①堆肥あるいは、堆肥状の散布物を10アール当り300～500kgで中量散布する場合は、次のようにまずリンチピンを抜き、アジテータ、スパーサ、ブッシュをシャッター部から抜き、シャッター底板を本機の散布部より取り外します。



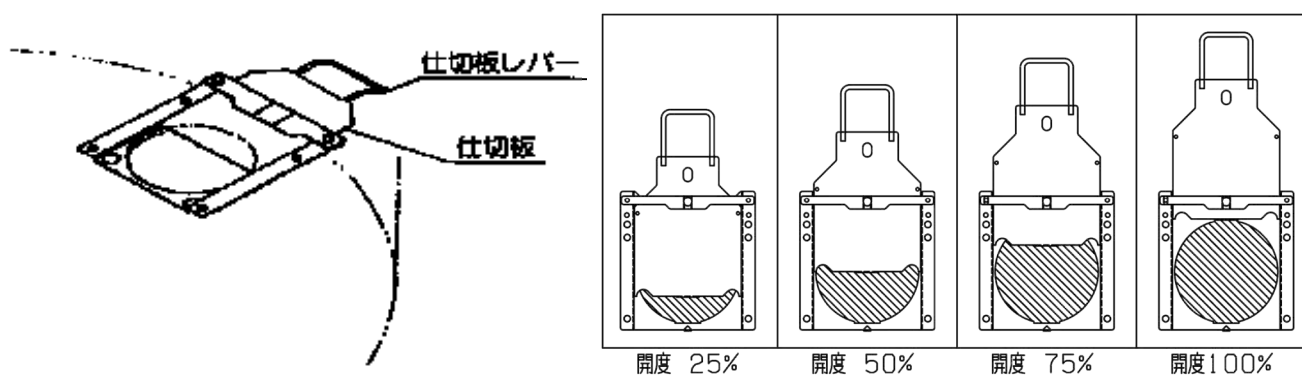
※印

中量散布時は
使用しない部品

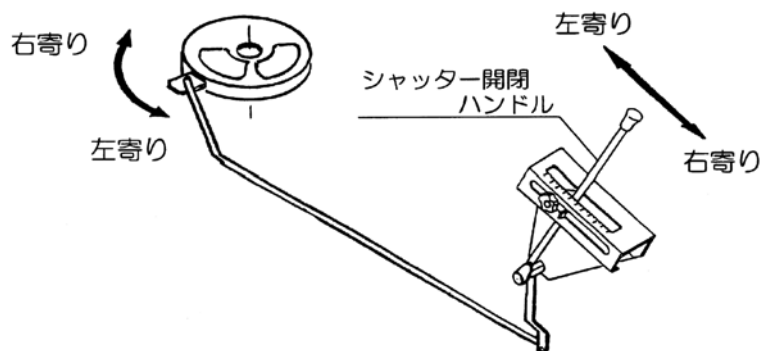
注意

取り外した部品は紛失しないように
大切に保管しておいてください。

- ②中量散布時の散布量の調整は、仕切板の開度により調整します。この時の散布量の目安はP21の表を参照のうえ、仕切板レバーにより選定調整してください。



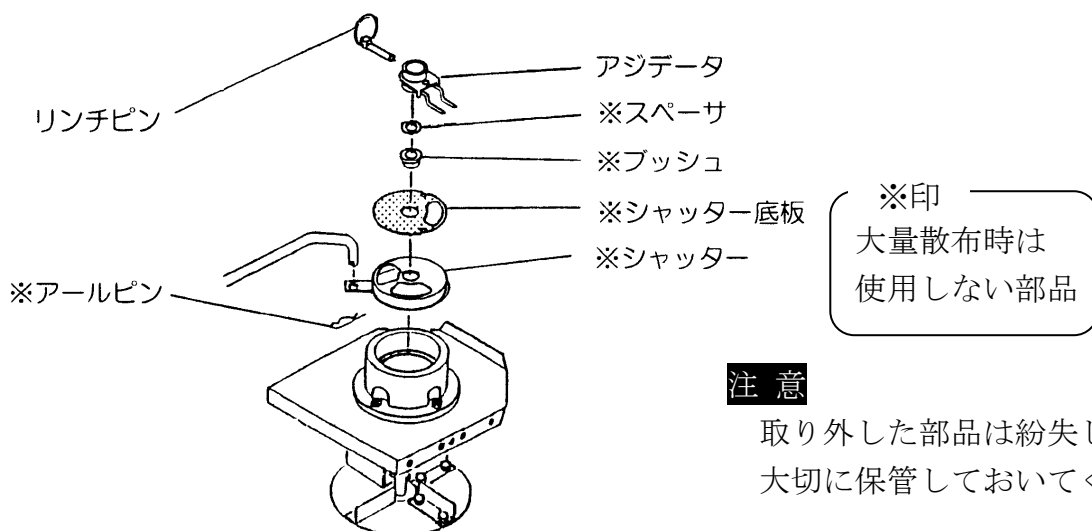
- ③散布方向の微調整は、シャッター開閉ハンドルでも調整できます。シャッター開閉ハンドルを「閉」から「開」にすると散布の中心が右寄りから左寄りとなります。スピナーファンの角度による調整はP.26を参照してください。



作業方法

4. 堆肥の大量散布について

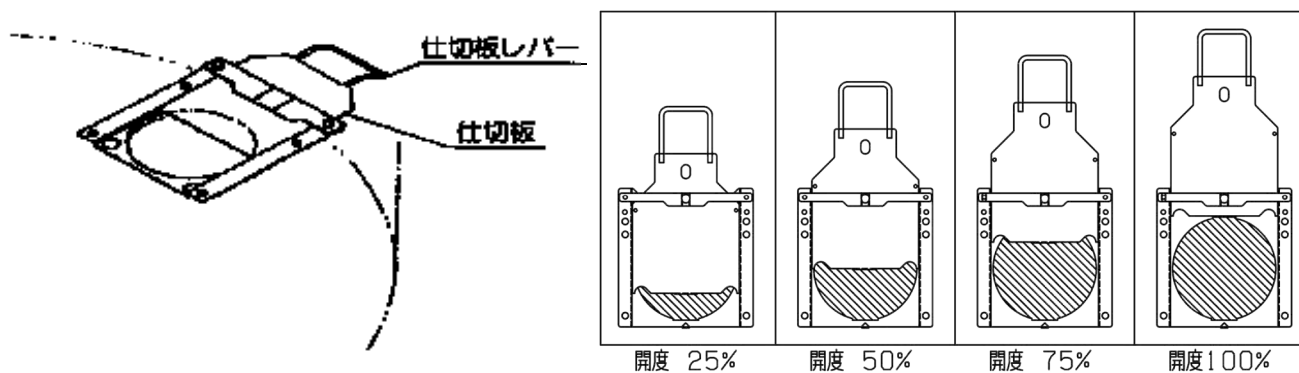
- ①10アール当たり2トンまでの堆肥あるいは、堆肥状の散布物を大量散布する場合は、まず、次のようにリンチピン、アールピンをアジテータおよびシャッター部から抜き、スペーサ、ブッシュ、シャッター底板およびシャッターを本機の散布部より取り外します。



注意

取り外した部品は紛失しないように大切に保管しておいてください。

- ②大量散布時の散布量の調整は仕切板の開度により調整します。この時の散布量の目安はP21の表を参照のうえ、仕切板レバーにより選定調整してください。



警告

- 野積堆肥を散布する場合は、石、木片等危険な雑物が混入しないように、ホッパーへの投入時にご注意ください。
- 石、木片等の雑物が混入していると、本機の破損の原因となると共に、飛散によって人や物を傷つけるおそれがあります。

注意

- ・散布幅は散布物の種類や性状の違いにより変わります。P18～21の散布物の違いによる有効散布幅を参考にして、必要に応じ散布幅を重複させながら作業してください。
- ・大量散布時に繰り出し量が不足するときは、オプションの大量散布用アジテータ(別売)をご使用ください。(P37 参照)

作業方法

5. 肥料の混合・カクハン方法について

◆散布する前にホッパー内で混合・カクハンする場合の手順

- ①シャッターを閉じてください。
- ②仕切板および側方取出し口用仕切板を閉じてください。
- ③混合する量の多い順にホッパー内へ投入してください。
- ④全種全量投入後、エンジンを始動して作業クラッチレバーを「入」にし、カクハンアームを回転させて肥料を混合カクハンし、混合が十分できたら散布してください。

危険

- ①肥料をホッパー内へ投入するときは、エンジンを停止し、作業クラッチレバーを「切」にし、カクハンアーム、スピナー等、各部の作動停止を確認してから投入してください。
- ②肥料には混合の適否があります。必ず、次の表を参考にして安全性を確認してから混合してください。
- ③混合の可否が不明な肥料については、必ず肥料メーカーにご相談ください。

	硫酸硝酸石灰チッソ	過熔苦重土焼リ過リ	硫酸草木灰	魚骨鶏堆緑肥・油カス粉	生消炭硫水炭ケ
	安安安素ソ	石ン石ン	リリ灰	ス粉ン肥肥	灰灰ル土土土ル
硫酸硝酸石灰チッソ	▲▲▲○× ▲▲▲▲× ▲▲▲▲× ○▲▲▲▲ ×××▲	○×○○○ ▲×▲○ ▲×▲▲ ▲○▲○ ×○×▲	○○× ▲▲× ▲▲× ▲▲▲ ▲▲○	○○▲▲▲ ○▲▲▲ ×▲××× ▲○▲▲ ○○○▲○	××▲○××× ××▲××× ××▲××× ▲▲▲▲ ○○○×○○○
過熔苦重土焼リ過リ	○▲▲▲× ×××○○ ○▲▲▲× ○○▲○▲	▲○○○ ▲×○ ○×○ ○○○	○▲× ○○○ ○▲× ○○○	○○○○○ ○○▲○ ○○○○○ ○○○○○	××▲○××× ▲○○○○○ ××▲○××× ▲▲▲▲▲
硫酸草木灰	○▲▲▲▲ ○▲▲▲▲ ×××▲○	○○○○○ ▲○○○ ×○×○	○○○ ○○○ ○○○	○○○○○ ○○○○○ ○○▲○	▲○○○○○ ▲○○○○○ ○○○○○○○
魚骨鶏堆緑肥・油カス粉	○○×▲○ ○○▲○○ ▲▲×○ ▲▲×▲▲ ▲▲×▲○	○○○○○ ○○○○○ ○▲○○○ ○▲○○○ ○○○○○	○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○	○○○○○ ○○○○○ ○○○○○ ○○○○○ ○○○○○	○○○○○○○ ○○○○○○○ ×▲○○▲▲▲ ××▲○××× ○○○○○○○
生消炭硫水炭ケ	×××▲○ ×××▲○ ▲▲▲▲○ ○▲▲▲× ×××▲○ ×××▲○ ×××▲○	×▲×▲ ×○×▲ ○○○▲ ○○○▲ ×○×▲ ×○×▲ ×○×▲	▲▲○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○	○▲××○ ○○▲×○ ○○○▲ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○	○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○

《記号の見方》

- 印：混合しても良いもの
- ▲印：混合したらすぐに散布すべきもの
- ×印：混合してはならないもの

『肥料便覧より』

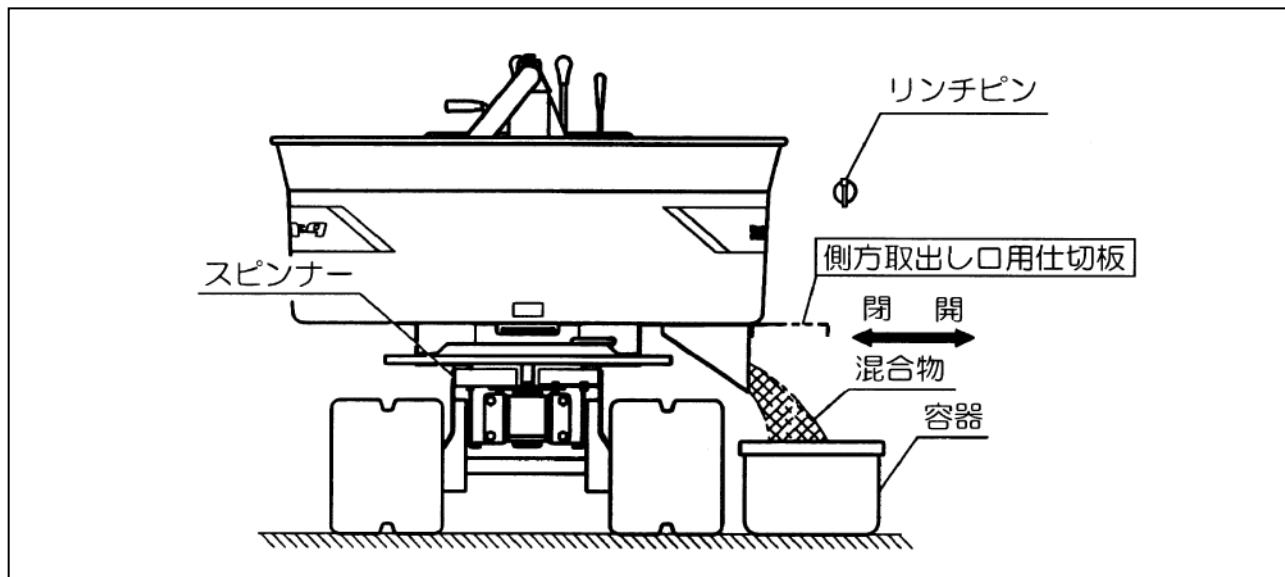
注意

尿素は空気中の水分を吸収し、他の混合物を硬化させる性質があります。混合は避け、尿素単肥として散布してください。同様に古く湿った肥料は避けてください。

作業方法

◆混合・カクハンした肥料を取り出す場合の手順

- ①仕切板および側方取出し口用仕切板を閉じてください。
- ②混合する量の多い順にホッパー内に投入してください。
- ③全種全量を投入後、エンジンを始動して、作業クラッチレバーを「入」にし、カクハンアームを回転させ、肥料を十分に混合してください。
- ④肥料の混合ができれば、一旦作業クラッチを「切」にして、本機の取り出しシュートの下に容器を置きます。



- ⑤側方取出し口用仕切板を固定しているリンチピンを抜き取り、仕切板を手前に引くと、ホッパー内の混合肥料が容器内へ落下し始めます。
- ⑥混合肥料の取出しシュートからの落下繰り返しが出し不十分な場合は作業クラッチレバーを「入」にし、カクハンアームを回転させてください。混合肥料が連続的に繰り返し出されます。
- ⑦容器がいっぱいになったら側方取出し口仕切板を閉じてください。

⚠ 危険

- 肥料の混合作業をするときは、本機が動かないよう平坦な場所を選び駐車してください。
- 駐車するときは、本機が動き出さないよう走行クラッチを切り、副変速レバーを必ず中立(N)位置にしてください。
- 混合作業中であっても作業クラッチレバーを「入」にするとスピナーが回転し、危険です。スピナーには近づかないようにしてください。

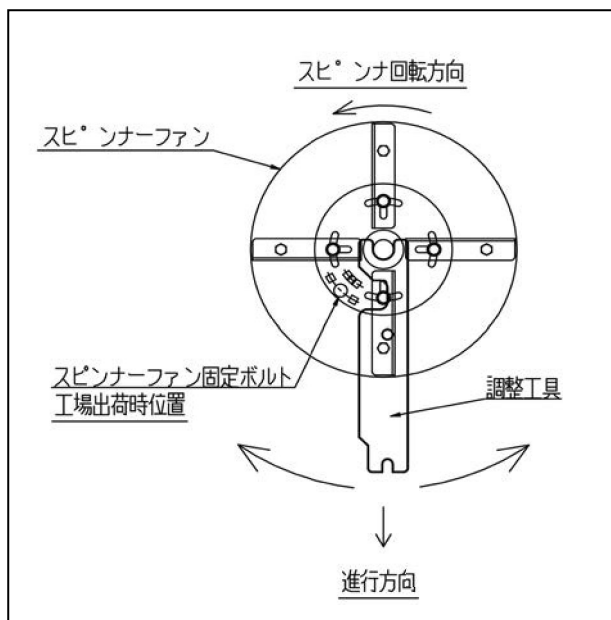
注意

ビニール片やヒモ等の混入した肥料をホッパーに投入すると、アジテータに絡んだり繰り返し出し口に詰まったりして機械の破損の原因となりますので混入しないようご注意ください。

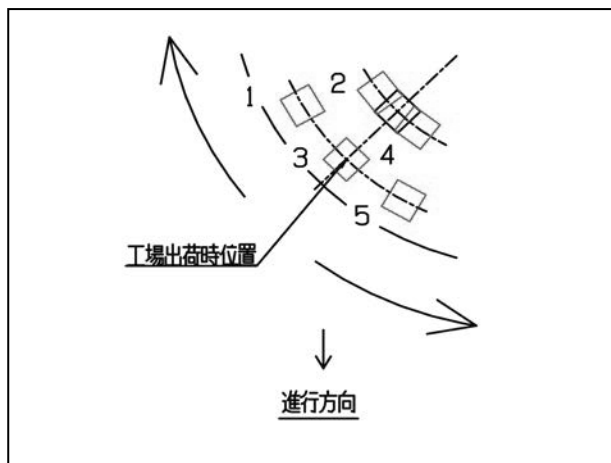
作業方法

6. 散布方向の微調整について

- ① 散布物の種類や散布量によって、散布分布中心が変化することがあります。
- ② このような場合は、スピナーファンの固定角度を変えることにより微調整できます。



- スピナーファン固定ボルトを外します。
調整工具をスピナー回転中心軸に入れ、矢印の方向に調整工具を回転させると、スピナーファンの羽根の角度が変わります。
- 次の図を参考にスピナーの固定位置を決めてください。散布が左に片寄る時は今より大きい数字の穴を、散布が右に片寄っている時は今より小さい数字の穴を固定ボルトで固定してください。



注意

散布の適格・不適格について

- 有機肥料の中でも骨片・魚粉・油カスなど性状、形状および比重の著しく異なるものが混合された肥料は、均一散布には不適格な肥料です。
- また、長い繊維質(ワラ等)を含む堆肥も本機の構成上、散布不可能な堆肥です。
- 散布可能な堆肥は、長い繊維質(ワラ等)を含まない完熟堆肥です。

危険

スピナーファン部の調整はトラクタのエンジンを停止し、スピナーの回転が完全に停止してから行ってください。

注意

スピナーファンの固定用ボルト、ナットは確実に工具で締め付けてください。

積降ろし運搬・移動

1. トラック・トレーラへの積降ろし

- ①トラックおよびトレーラへの積み降ろしは、平坦地を選び、補助者1名の立会いのもとで行ってください。
- ②積み降ろしに使用するアユミ板は、滑り止めのある400kg以上の荷重に耐えられるものを使用し、地面との傾斜角度が15度以内になる長さのものをご使用ください。
- ③アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実に掛けて外れないことを確認してから、本機の積み降ろしを行ってください。
- ④積み降ろしの際の車速は、変速レバーをF1に入れ、最低速度で安全を確認しながら行ってください。
- ⑤トラックおよびトレーラへの積み込みは、必ず前進走行で行ってください。

！ 警告

- オプション部品の補助ステップに人が乗った状態での積み降ろしは行わないでください。
- 補助ステップに人が乗ったまま公道や路上を走行しないでください。

2. トラック及びトレーラでの運搬

- ①本機が運搬中、荷台上で移動しないようクローラに木片などで歯止めをし、機体をロープで荷台に確実に固定してください。
- ②運搬中は、変速レバーを必ず低速側に入れ、走行クラッチレバーを「切」の位置にしてください。

！ 危険

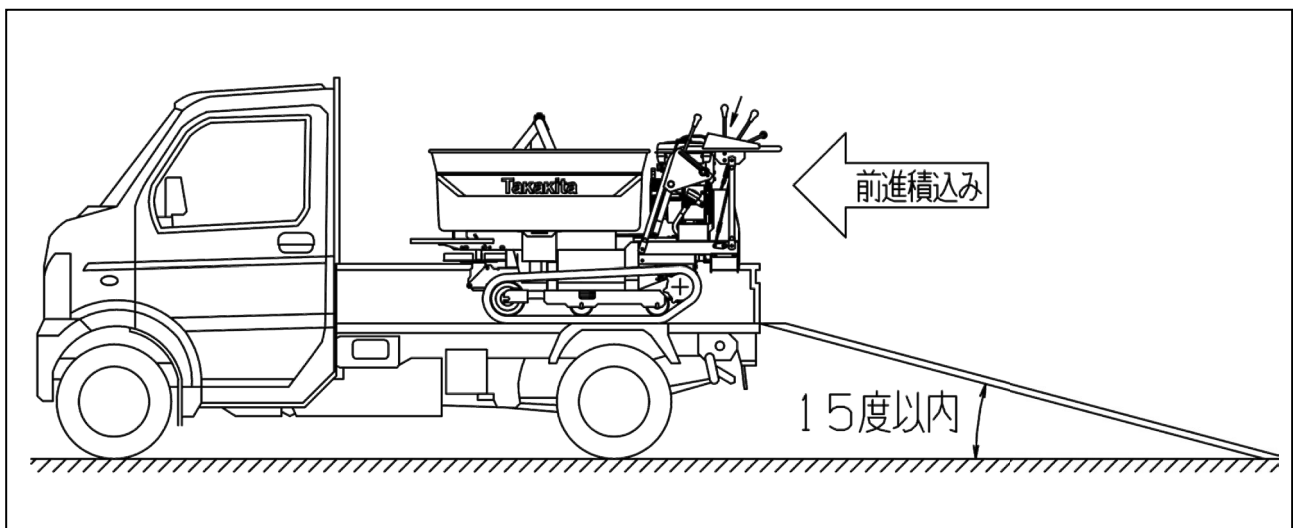
- ホッパー内へ肥料や堆肥を入れた状態での積み降ろしは、重量バランスがくずれやすく、危険ですので行わないでください。
- 後進積み込みは、重量バランスがくずれやすく危険ですので行わないでください。
- 積み降ろし時、アユミ板上でのサイドクラッチレバーの操作は、本機の落下の原因となりますので行わないでください。

3. 移動について

公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。公道を移動する時は、トラック等で運搬してください。

注意

特にホッパー内に肥料や堆肥を入れた状態での移動は行わないでください。



作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。

警告

- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。衣服が巻き込まれて危険です。
- 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、回転部が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照ページ	チェック
1	エンジンの燃料	十分入っているか	別冊説明書	
2	エンジンオイル	規定量が入っているか オイルが汚れていないか	別冊説明書	
3	エンジンのエアクリーナ	オイル量および汚れ	29	
4	走行ミッション	オイル量およびオイルの汚れ	29	
5	HSTミッション	オイル量および暖気運転	29	
6	走行クラッチレバー	入／切の作動確認	30	
7	作業クラッチレバー	入／切の作動確認	30	
8	左・右サイドクラッチレバー	スムーズな作動	31	
9	駆動チェン	注油および張り調整	31	
10	駐車ブレーキワイヤ	駐車ブレーキが作動するか	31	
11	シェアボルトの交換	増し締め・予備の確認	32	
12	散布部	清掃・作動確認	32	
13	クローラ	張り調整、石等の除去	33	
14	各部への注油・グリスアップ	各部への給油参照	34	

点 検 メ モ

簡単な手入れと処置

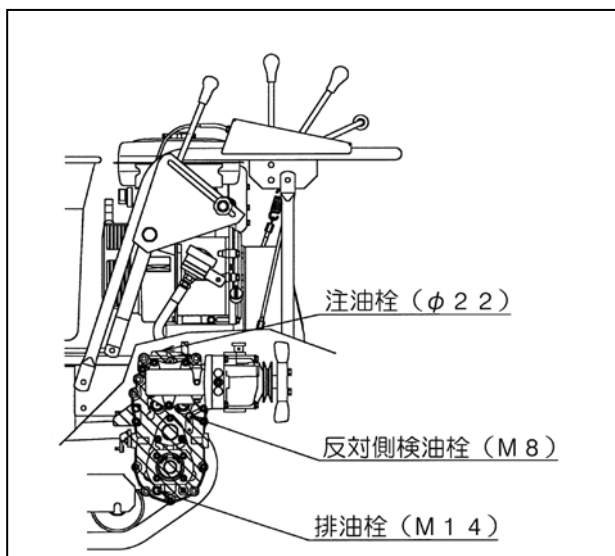
1. エアクリーナ

本機に使用しているエンジンのエアクリーナは、ホコリ対策のため、オイルバス式のエアクリーナを採用しております。作業前にオイルが入っているか、確認してください。不足していれば補充し、また、オイルがゴミやホコリ等で汚れている場合は新しいオイルに交換してください。

(オイル：エンジンオイルと同等品)

2. 走行ミッション

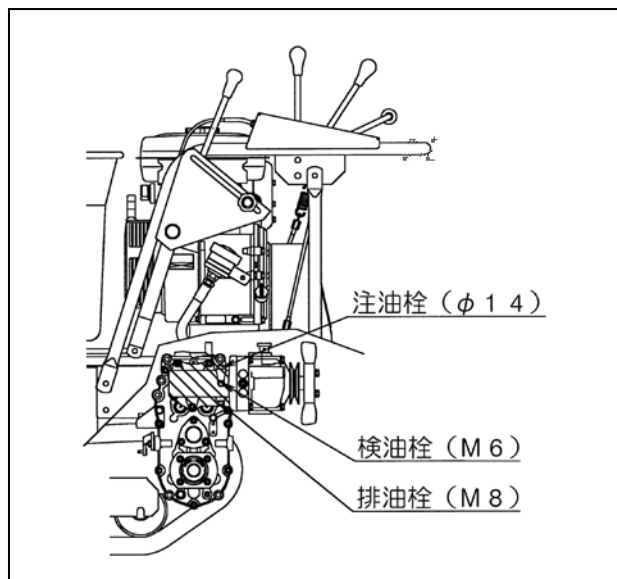
走行ミッションのオイル交換は、初回は30時間後、2回目以降は年1回シーズン始めに交換してください。



(オイル：ギヤオイル #90
油 量：約2ℓ)

3. ベベルギヤケースのオイル交換

ベベルギヤケースのオイル交換は、初回は30時間後、2回目以降は年1回交換してください。



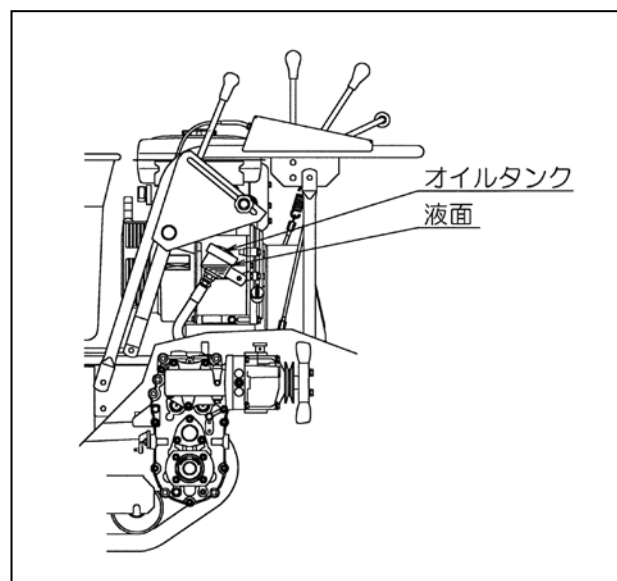
(オイル：ギヤオイル #90
油 量：0.1ℓ)

4. HSTミッションのオイル管理

- 毎日の作業前にはオイル漏れがないか、オイルタンクのオイル量が適量かどうかを確認してください。
- オイル量が不足している場合は、オイルタンクの表示位置まで指定のオイルを補給してください。

※HST用指定補給オイル：

SAE 10W-30 CD級エンジンオイル
もしくは、ISO VG46耐摩耗性作動油

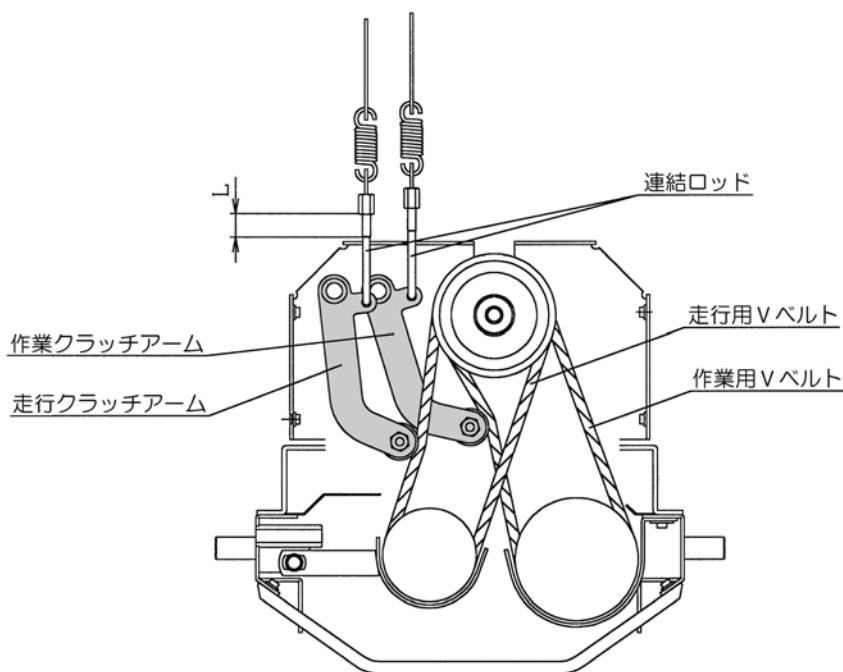


簡単な手入れと処置

5. 走行クラッチ・作業クラッチの調整

使用している間に、クラッチワイヤの伸びや各部に遊びが発生し、調整が必要となります。

- ①副変速レバーを中立位置に入れ、エンジンを始動してください。
- ②走行クラッチレバー、作業クラッチレバーをそれぞれ数回「入」、「切」させてください。
- ③「入」の時にVベルトが駆動し、「切」の時にVベルトが停止すれば正常です。
- ④「入」の時にVベルトがスリップするようであればクラッチワイヤ両端のネジ部のL寸法が小さくなるよう、スパナで調整してください。
- ⑤「切」の時にVベルトが停止しない場合は、逆にL寸法が大きくなるよう、スパナで調整してください。



注意

L寸法を最小に調整しても、各クラッチレバーが「入」状態でVベルトがスリップする場合は、Vベルトの交換もしくはクラッチワイヤの交換が必要です。

販売店にご相談ください。

警告

作業前には必ず、走行クラッチ、作業クラッチの作動確認を行ってください。
緊急時にクラッチが切れないと、重大な障害が生じる危険があります。

簡単な手入れと処置

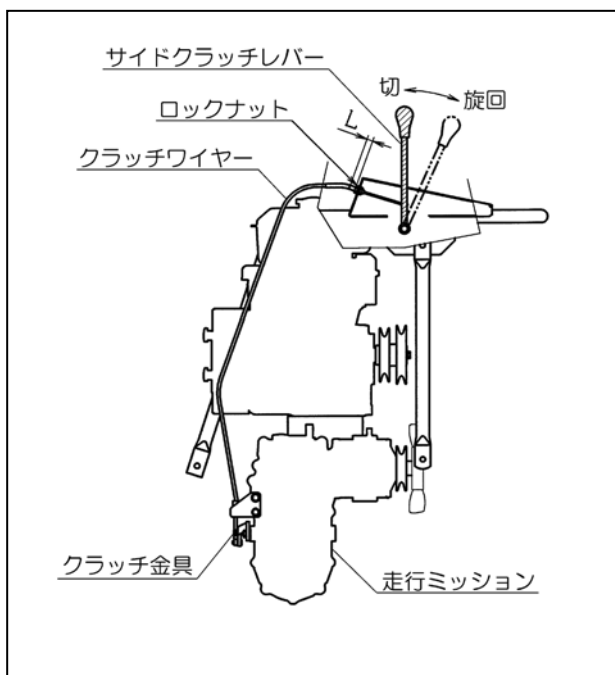
6. 左右のサイドクラッチレバー

使用している間にクラッチワイヤの伸びや各部に遊びが発生し、調整が必要となります。

- ①副変速レバーを低速の位置に入れ、ごく低速で走行してください。
- ②左右のサイドクラッチレバーを交互に数回ずつ手前に引き、左右への旋回が問題ないかを確認してください。
- ③左右いずれかに旋回時サイドクラッチの切れが悪い場合は、切れが悪い方のクラッチワイヤ両端のネジ部のL寸法が大きくなるようスパナで調整してください。
- ④調整後、ロックナットはスパナで確実に締め付けてください。

注意

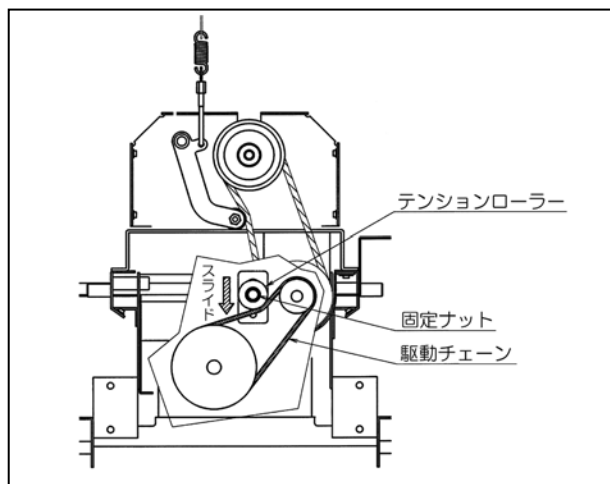
- サイドクラッチワイヤの調整においては、ワイヤの調整後、必ずサイドクラッチレバーが「切」の位置でクラッチ金具に多少の遊びがあることを確認してください。
- クラッチ金具の作動に遊びがないと走行ミッション内の爪クラッチの損傷の原因となります。



7. 駆動チェーン

駆動チェーンにたるみがある場合は、テンションローラの固定ナットを緩め、テンションローラをスライドさせ、駆動チェーンを張ってください。

テンションローラが動かないように調整後、固定ナットを確実に締めてください。

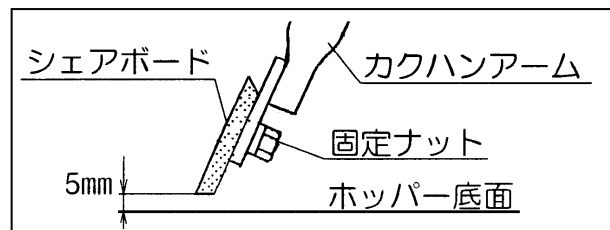


8. シェアボードの隙間調整

◆定期的にシェアボードの

隙間調整が必要です

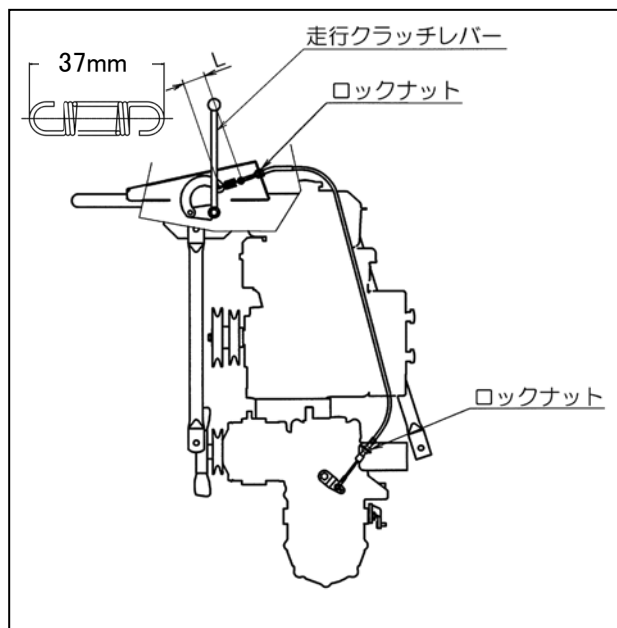
使用していると摩耗により、シェアボードとホッパー底部の隙間が大きくなってきます。5mm程度の間隔になるように固定ナットで調整してください。



9. 駐車ブレーキワイヤの調整

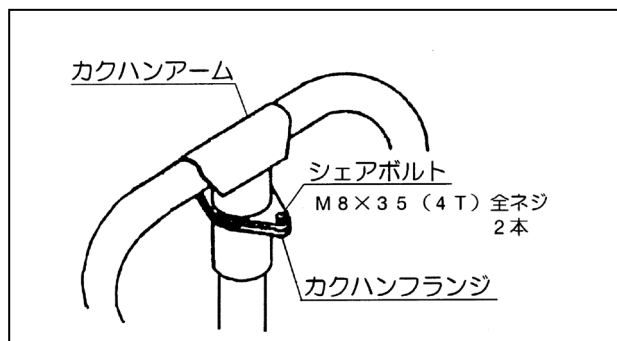
走行クラッチレバーを「切」にしたとき上端部のスプリングフック内寸法Lが37mmになるようにネジ長さを調整してください。

簡単な手入れと処置



10. シェアボルトの交換

- ◆本機にはカクハンアーム部への急激な過負荷の作用による機体の損傷を防止するための安全装置として、シェアボルトを次図の位置に装備しています
過負荷が作用したとき、シェアボルトが切断され、本機主要部の損傷を防止します。



- エンジンが作動していてスピナーも回転しているのに、カクハンアームが回転していない場合は、このシェアボルトの切断が考えられます。

次の手順でシェアボルトを交換してください。

- ①本機のエンジンを停止してください。
- ②本機カクハンアーム部のシェアボルト(前出の図参照)を確認してください。

- ③シェアボルトが切断されていたら、切断されたシェアボルトをカクハンフランジ部のボルト穴より抜き取ってください。

- ④スピナーを手で回し、カクハンアーム側のフランジ部のボルト穴とカクハンフランジのボルト穴を合わせ、新しいシェアボルトをこのボルト穴に挿入後、ナイロンナットで確実に締め付け固定してください。

※スペアのシェアボルトは、フレームの左側側板の点検窓のフタに取り付けておきます。

◆シェアボルトおよびナットのサイズ

- ・シェアボルト
M8×35(4T) 全ネジ 2本
- ・ナイロンナット
M8 2ヶ

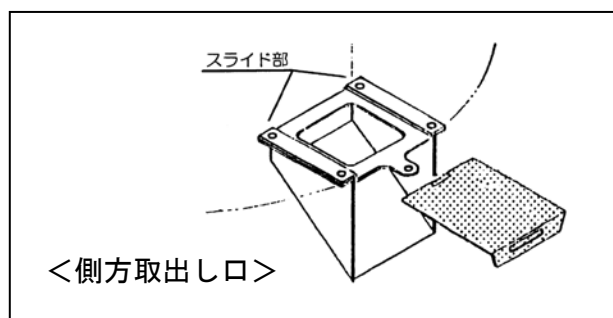
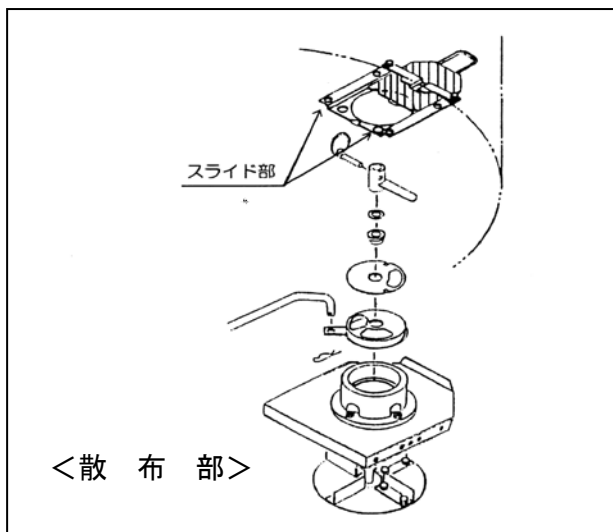
! 警告

- シェアボルトの交換は必ずエンジンを停止し、回転部が止まってから行ってください。
- シェアボルトは、指定のボルト以外は絶対に使用しないでください。

11. 散布部及び側方取出し口部の清掃

- 散布部は、大変汚れやすい部分です。
使用前には、散布精度を保つためにも、巻き付いたゴミの除去、清掃を行ってください。
- また、散布部と側方取出し口の仕切板スライド部は、特に肥料や堆肥が詰まりやすいため、こまめに清掃してください。

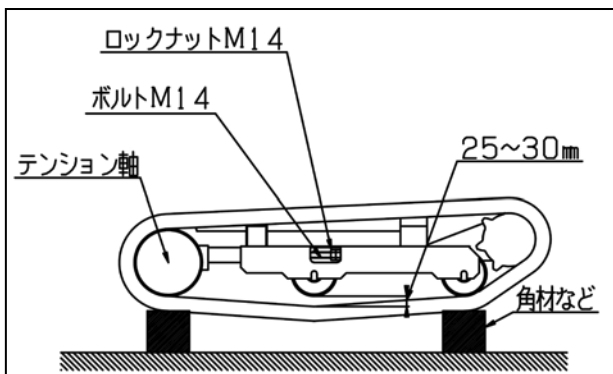
簡単な手入れと処置



12. クローラの張り調整

クローラは使用している間に伸びと摩擦により、たわみが大きくなります。定期的なたわみ量を確認し、調整してください。

※調整はロックナットを緩め、ボルトを締め込んで行います。次図のようにクローラ接地面の両端部に角材などを入れ、クローラを浮かした状態で中央部の転輪接点からのたわみ量が25～30mmとなるよう、左右とも均等に調整を行ってください。



注意

- 調整は平坦地を選び、エンジンを停止してから行ってください。
- 調整後、ロックナットは確実に締め込んでください。
- ボルトのネジ部に調整後、グリスを塗布しておくことで錆の発生を防ぎ、以降の調整が容易となります。
- クローラの張りすぎにご注意ください。
作業中、クローラ内接面に土が多量に付着した場合は、都度エンジンを停止し除去してください。
また、使用後は付着した土を水洗い除去してください。
土噛みは放置しておくことで、クローラの異常張力の原因となり、走行ミッションおよび走行部の損傷をまねきます。

13. エンジンの点検・整備

※エンジンについては、別冊の「エンジン取扱説明書」を必ずお読みいただき、日常の点検・整備には万全の注意をお願いします。

注意

燃料タンクに注入する時は、溢れないように注意してください。(燃料の液面と上部に数センチ空間を開けてください。)

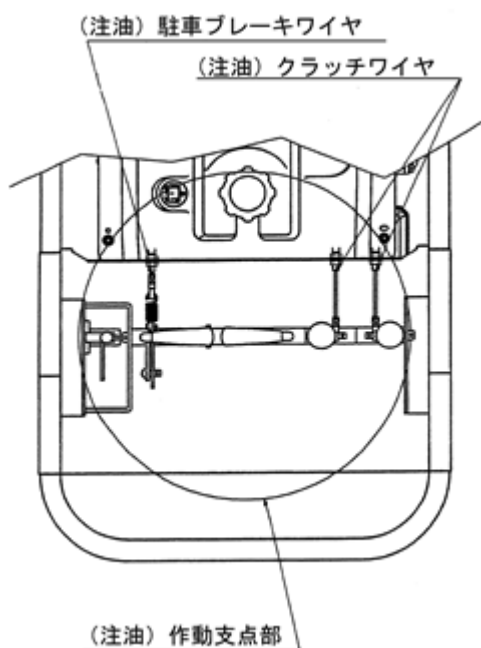
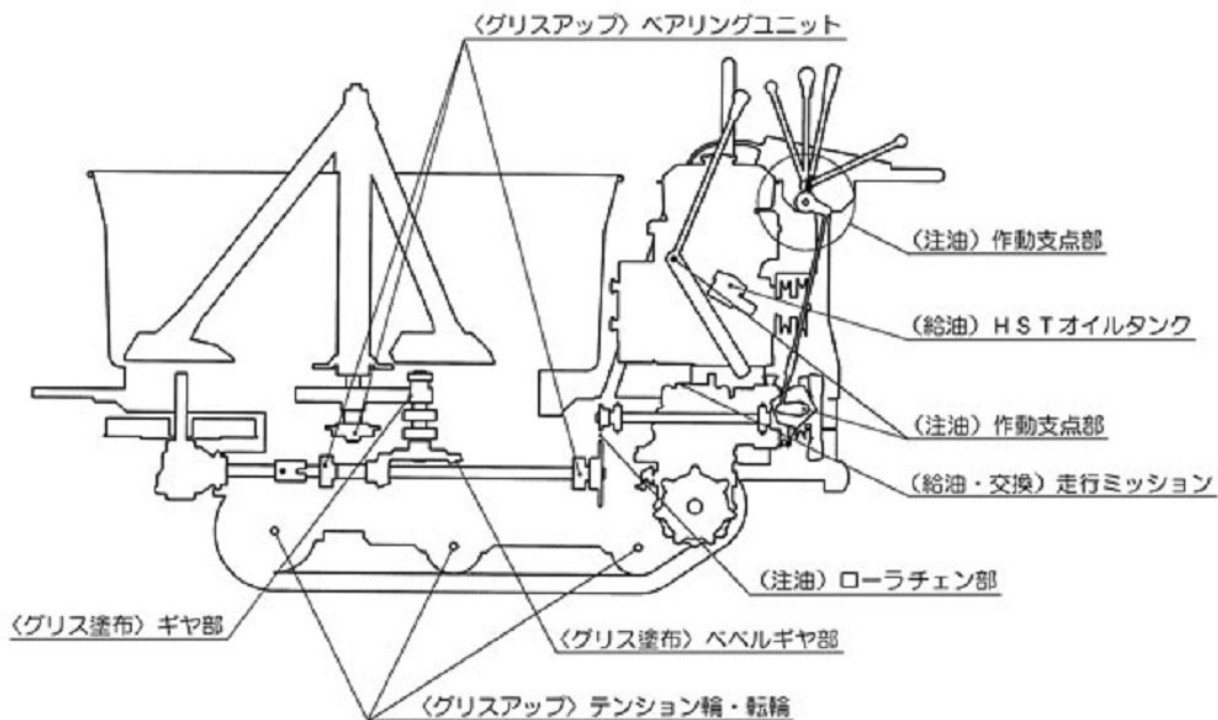
- 作業が終了したら、次期の使用時に備え、かつ末永くご利用いただくためにも、十分なお手入れを行ってください。
- 水洗いをして付着した堆肥、肥料、泥やホコリなどを落とし、特に散布部に巻き付いたゴミやホッパーに付着した肥料等を念入りに取り除いてください。
- 乾燥後は、各回転部、摺動部、チェーン部やワイヤ部に十分注油し、錆びないようにしてください。

簡単な手入れと処置

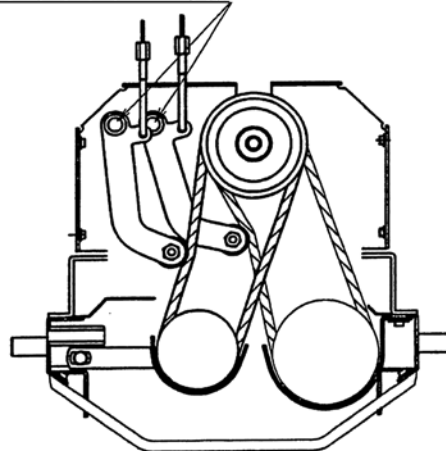
- 塗料の剥がれた部分には、補修塗料等を塗って錆が出ないようにしてください。
- 各部のボルト、ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときは締めてください。
- 各部の点検を行い、不調部は部品交換や修理を済ませておいてください。

- 格納する場所は、雨やホコリのかからない屋内に保管してください。
- 格納は平坦な所で保管してください。

14. 各部への給油



〈注油〉クラッチアーム支点



不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
● 散布が不均一となる	● 散布物とシャッター底板と アジテータの選定不良	● 散布物に応じたシャッター 底板とアジテータの選定	15
	● 散布物によるスピナーファン 羽根の角度設定不良	● 散布物に応じたスピナー ファン羽根の角度を調整	26
● 作業クラッチを入れても 散布しない	● カクハンアーム、スピナー ともに回転していない	● クラッチワイヤの調整不良 再調整が必要	30
	● カクハンアームが回転して いない	● シェアボルトがせん断されて いるため交換が必要	32
	● シャッター部に散布物が 詰まっている	● シャッター部の詰まり物の 除去	32
	● シャッター底板が表裏、逆に セットされている	● シャッター底板の再セット	15 22 23
● 走行クラッチレバーを 入れても走行しない	● 副変速レバーが中立位置に ある	● 副変速レバーを「低速」か 「高速」に入れる	12
	● 走行ミッション駆動Vベルトが 回転していない	● クラッチワイヤの調整不良 再調整が必要	30
	● 走行ミッション駆動Vベルトが 回転しているが、前後進変速 レバーを操作しても走行しな い	● HSTミッションのオイル量の 不足が考えられる HSTオイルタンクへオイルを 補給する	29
● サイドクラッチレバーを 切っても旋回できない	● サイドクラッチワイヤの伸び もしくはワイヤ長さの調整不良	● サイドクラッチワイヤ長さの 再調整	31
● ホッパーの底に肥料 (堆肥)が多く残る	● シェアボードとホッパー底との すき間量の確認 (シェアボードの摩耗)	● シェアボードのすき間量の 調整をし、標準5mm程度と する	31

付 表

1. 主要諸元

品	名	自走ブレンドキャスタ
型	式	BS-632SS
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1,970
	全 幅 (mm)	1,160
	全 高 (mm)	1,150
質	量 (kg)	340
走	走 行 方 式	エンドレスゴムクローラ
行	車 速 (km/h)	低速前進 0～1.7 低速後進 0～1.2 高速前進 0～3.5 高速後進 0～2.4
	クローラ幅 (mm)	250
	クローラ長 (mm)	2,380
エ	型 式	三菱 GB290LN-360
ン	定 格 出 力 (kW/min ⁻¹ {ps/rpm})	4.4/1800 {6.0/1800}
	最 大 出 力 (kW/min ⁻¹ {ps/rpm})	5.8/2000 {8.0/2000}
ジ	使 用 燃 料	無鉛ガソリン
ン	タ ン ク 容 量 (ℓ)	6.0
	始 動 方 式	リコイルスタータ
ホ ッ パ ー	ホッパー地上高 (mm)	905
	ホッパー口径 (mm)	1,140
	ホッパー容量 (ℓ)	380
有 効 散 布 幅 (m)	粒状化成肥料	4～5
	有機肥料	2～3.5
	完熟堆肥	2～4
作 業 速 度 (km/h)		1～3.5
作 業 能 率 (分/10a)		6～33

※上記仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

付 表

2. 主な消耗部品

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	備 考
シェアボード No.1	11239 1352 003	
シェアボード No.2	11239 1354 003	
スピナーファン	34111 8332 000	
アジテータAssy	24102 2350 001	
リンチピン	03410 0080 000	アジテータ用 φ6
ブッシュ	24102 2417 000	アジテータ軸用
シェアボルト	01314 5080 350	M8×35 4T 全ネジ
ナイロンナット(シェアボルト用)	02311 4001 080	M8 ※上記ボルトとセット

3. 主なアタッチメント（別売品）

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	用 途
補助ステップアタッチ	BS-AS3	ほ場内の乗用補助
筋蒔きアタッチ	BSS-LS-2	肥料・堆肥の筋蒔き
エプロンカバーアタッチ	BSS-EN-2	散布幅規制 1.2～1.5m
	BSS-EW-2	散布幅規制 2.1～2.4m
ホッパーカバーアタッチ	BSS-HC	ホッパーからの肥料飛散防止

4. オプション部品（別売品）

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	用 途
大量散布用アジテータ	24102 2370 000	大量散布時のみ使用